

## 仕事と介護の両立を目指して

著者	高林 知佳子
雑誌名	新潟日報 上越かわらばん
巻	1662
ページ	2-2
発行年	2016-04-03
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10631/00001313">http://hdl.handle.net/10631/00001313</a>

当高いといえます。と、介護が終わった時、い、自分の人生の目標をいつまで続くか分から元通り復帰するのはかな見失うことにもつながりない介護であるがためり難しくなります。ます。

家族の介護を理由に介護が高くなってくると急に、介護する側と介護される側がそれぞれに自分護に専念する状態は、生の仕事は決して楽なもの10万人と言われている間は29・6%、85歳以上での暮らしや人生を大切に活のすべてが介護一色にはありません。ですが、今の日本は少子高齢は59・6%となっていてする姿勢が大事になってなりがちです。こうなる介護が終わった後も自己化と定年延長で介護離職す(2014年7月の厚きます。暮らしを維持すと社会との接点が少なくなるの人生は続きます。自己予備軍が増えており、このこと

県立看護大学 地域看護学准教授 高林 知佳子

なっていく、だんだんと孤独を感じ

は個人の問題だけでなく、企業や社会にも大きく影響が出てくる問題でもあります。

## 仕事と介護の両立を目指して

ためにも、「介護か、仕事か」という二者択一ではなく、介護保険サービ

生労働省「介護給付費実態調査月報」と総務省「人口推計月報」による。が揺らぐと介護にも影響問を持ったりするように疑をフルに使い、「介護と

実際、人口に占める要

口推計月報」による。

が揺らぐと介護にも影響問を持ったりするように疑をフルに使い、「介護と

支援・要介護認定者の割合をみますと、40〜64歳

このため、もし仮に両

が揺らぐと介護にも影響問を持ったりするように疑をフルに使い、「介護と

では0・4%、65〜69歳

親が85歳以上まで健在の

が揺らぐと介護にも影響問を持ったりするように疑をフルに使い、「介護と

では2・9%ですが、年

護状態になる可能性は相

が揺らぐと介護にも影響問を持ったりするように疑をフルに使い、「介護と

一度仕事を辞めてしま

ス状態になってしま

第1日曜掲載